

広報

# 三の之

2006

10

今月100歳になった熊谷仙市さん

# いばる仕組み、

# 反省する仕組み



最近始めた取り組みの中から、今の姿をいくつか紹介します。予想以上のヒットで、いばれることも少しはありますが、反省することの方がたくさん。ただ、反省点をきちんと分析することで、打開への糸口が見えてきます。逆に成功からもこれからのヒントが無数に学べます。振り返ることの大事さ、それを忘れなければ、より良い方向への足がかりが見えてきます。

大いにいばっていいところはいばって、大いに反省するべきことは反省して。町のより良いこれからにつなげます。

## 見出し横のマークについて

3種類のマークで「今の姿」を表してみました。



快適な取り組みが続いています。



始まったばかりや可否半ばなどで、現段階ではどちらとも。



不調です。悪戦苦闘中。

## 形も中身も、まだまだ



### グループ制

「ようやく、リーダーという呼び方が定着したくらい。まだまだこれから」

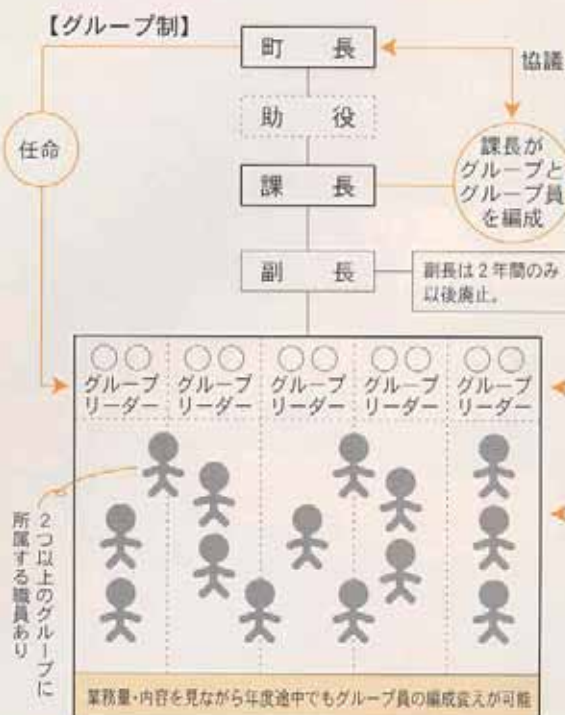
導入から半年、グループ制は徐々に浸透。ただし、山場はこれから。

グループ制はこれまでの係制（係長）を廃止し、グループというゆるやかな集まりを課内に作るもの（右図）。導入した理由は二つ。ひとつ目は、多様化する住民ニーズへの対応と必要なところに多くの人材を集中する「選択と集中」ができる柔軟性のある組織にすること。ふたつ目は、係長、課長補佐級をなくし、決定権者までの階層を少なく（フラット化）し、すばい決断ができるようにすること（ただし課長補佐級に該当する副長を2年間に限り一部の課に配置）。これにより個々の職員、課長の責任はより重くなり、立案能力など資質向上も期待できます。

グループ制は、町始まって以来の大改革とされ、導入できたこと自体を評価する一方で、職員の意識改革が進んでいないとする声も聞かれます。各グループにはまとめ役的なグループリーダー（以下GL）がいますが、GL＝係長という意識が依然根強く、決定権者までの階層を減らすまではいっていないのが実情。また、職員の自己啓発を支援するため様々な研修メニューを準備しているものの、自ら進んでというのはまだまだ少数派。

「副長が廃止される2年後がグループ制の本格実施になるが、成功の鍵を握るのが職員の意識改革にあるのは間違いない。急には無理かもしれないが、粘り強い取り組みが必要。グループ制を住民のみなさんに知ってもらい、日頃の業務の中で住民が職員を育てるようなことも重要になってくるのでは」

そんな声が役場内で聞かれました。



## 自律への道はまだ遠い



住民と町の距離もまだ遠い？町の計画等の策定時に住民から意見・提言を募るため昨年5月から始まったパブリックコメント。利用者の少ない状況が続いています。

### パブリックコメント



この制度は、計画策定をする町などの実施機関が、意思決定をする前に、20日以上計画等の案や関連する資料をホームページや広報紙、閲覧などの手段で公表し、住民からの意見を求めるもので、住民から出された意見などの概要や、それに対する実施機関の考え方も公表。形成過程に透明性をもたせることで、政策の公平性を確保するとともに町が自律していく上で最も重要な「住民参加」を推進するねらいもあります。

これまでパブリックコメントの相上（そじょう）にあがったのが情報化推進計画（住民からの提言・意見は1件）、自律推進計画（同5件）、男女共同参画プラン（同2件）。いずれも低調で、担当者は「町で作った計画に住民が提言・意見する土壌がまだ育っていないのが最大の原因。職員側も通過儀礼的なものにしか考えていないのでは。町職員、住民双方が意識改革していくことが必要だし、お互いの距離を縮めていかないとどうしようもない。計画などの公開の仕方にも問題があると思うので、意見を寄せてほしいです」。

これから福祉計画や国民保護計画などの策定を予定。その後も多くの政策の策定や改廃が予想されることから、住民に「わかりやすい」情報提供や住民の関心を高める取り組みが求められています。

問い合わせ 企画調整課 ☎76-3807

## 発展途上のまちづくり条例



九重町が生まれて50年の昨年2月1日、町の新たなスタートを象徴する「九重町まちづくり基本条例」がスタートしました。この条例は全13章。住民や議会、町の役割と責務や住民参加の推進、そのための情報公開や説明

### 地域づくり協議会



責任のあり方などが盛り込まれた非常に重要なもの。各条例の上位に位置づけられ「町の憲法」という声もあります。

この条例の目玉の一つとされるのが「地域づくり協議会」（第7章）。行政区などを基本として「地域づくり協議会」を設置し、計画書を作成。その経費や計画に盛り込まれた活動に対して町が助成。これまでの行政主体ではなく、住民に一番身近な地域に、課題解決や地域振興の機能を持たせようというものです。町では昨年度から助成経費として100万円を計上。しかし、今のところ利用者はゼロ。担当者は「まちづくり条例がまだ住民の中に浸透していないのも一因ですが、助成を受けるための手続きが煩雑すぎたというのも反省点です」。

ただし、協議会設置に向けた訴は各地で少しずつ強くなってきているようです。現在、関心を寄せている行政区が2、3カ所。地域と行政のパイプ役として各地区でこの春始まった「地区担当職員制」でも協議会設置が検討課題にあがっているところがあります。前出の担当者は「災害時の危機管理体制の確立のためにも地域づくり協議会は威力を発揮するはず。大変重要な取り組みなので、粘り強く推進していきたいです。地域に出向いて説明もしたいので、声をかけてください」。

問い合わせ 企画調整課 ☎76-3807

## 情報が冷めないうちに



町職員が地域へ出向き、町の施策などについて説明をする「出前講座」。徐々に利用者が増えていきます。

### 出前講座



9月15日には、町田長寿会の会合へ町の保健師が参加。「認知症について」の講座を開きました。同会では毎年、敬老の日近くに勉強会を開いており、今年の開催を検討した際、出前講座のことを知り申し込んだもの。集まったのは約30人。特に気になるテーマだけに熱心に聞いていました。「昨日食べた夕ご飯の内容を忘れるのは単なる物忘れで、食べたこと自体を忘れてしまうのが認知症」といったやさしい説明に参加者の一人は「とてもよくわかりました。来てよかったです」。

講座後半は脳をよく使う「後出しじゃんけん」などのゲーム。「この歳になって勉強できることは、とてもありがたいと思いました。出前講座はとってもいいですね。また、ぜひ」

9月16日には井手地区の「相寄り」へ町職員2人が出前。町の財政や介護保険の説明をしました。区長会で出前講座が推進されていることなどから初めて取り組んだもので、11人が参加。その中の一人は「だいぶ理解できるようになりました。良かったです。1年1回はこんな取り組みがあるといいですね」。

問い合わせ 生涯学習課 ☎76-3823

## あと半年使えます



「ちょっと目立たなかったかな」

町の施策などについて、住民のみなさんからの提言や意見をお寄せいただく方法はいくつもあります。手紙や電子メール、役場と文化センターに設置した提言箱、そして毎月第

### 町への提言郵便



2・第4土曜日の「町長と語るふれあいタイム」など。その中でも「これぞ決定打」と鳴り物入りで、始めたのが「町への提言郵便」。広報ここのえ4月号に折り込みました。提言などを記入し、封筒状にしてポストに投函で終わり。料金別納ですので、切手を貼る必要はありません。じゃんじゃんくるかな、と期待したのですが、現在までわずか5通。敗因のひとつが目立たなかったこと。広報の1ページとして読み飛ばした人が多かったのではないかと思います。折り込みでなく、別刷りにしていたら、もっと多かったかも。根本的な問題も考えられます。広報紙をはじめ町全体に住民のみなさんへ分かりやすく説明する姿勢が弱いということ。肝心の中身がわかりにくかったら、提言のしようがないですよ。大いに反省すべき点です。

もし、4月号が手元にあるのなら、この提言郵便の有効期限は来年3月31日までです。まだ使えます。ぜひ、ご利用ください。

問い合わせ 企画調整課 ☎76-3807

## 個人情報保護時代の必需品？



### 住基カード

最近、作る人が増えているのが「住民基本台帳カード（通称住基カード）」。

全国の自治体で生年月日などの住民情報を共有し、事務の効率化や市町村を越えた住民票の交付を目的とする「住民基本台帳システム」の本格実施にあわせ、2003年8月にスタートしたもので、このカードがあると転出の手続きが簡略化できるなどの利点があります。しかし、必要性に乏しく、利用者が非常に少ないことが全国的な問題に。九重町のここ1年の利用者数は20件程度ですが、最近になり増加傾向にあるといいます。その中心は高齢者。個人情報保護の、より厳格な取り扱いが求められるようになったことで、金融機関の窓口などで本人確認をするための写真入りの免許証やパスポートの提示を求められることが多くなってきました。しかし、高齢者の多くはいずれもっていないケースが多く、その際に便利なのが写真入りの「住基カード」。「公的な身分証明書」の機能もこのカードにはあるため、お困りの人は作ってみては。手続きは簡単。役場ふれあい生活課窓口へ、本人が印鑑とカード作成代の500円を持参すれば良いだけです。写真もこちらで撮影します。「住基カード」は転入出の際やインターネット上の行政手続きなどでも利用できますが、当分は身分証明書代わりというのが主な役割となりそうです。

また、大分市、別府市、杵築市、由布市、日出町、九重町内に住所や本籍のある人がそれぞれの市町で住民票や戸籍謄・抄本を請求できる「おおいた広域窓口サービス」もこの春から始まっています。



## 写真付き住基カード

運転免許証などと同様に  
公的証明書として利用できます

こんな時に役立つ  
公的な証明書としての活用例

- 運転免許証の更新時
- 投票時
- 各種申請書の提出時
- 各種証明書の提出時
- 各種申請書の提出時
- 各種申請書の提出時
- 各種申請書の提出時
- 各種申請書の提出時
- 各種申請書の提出時
- 各種申請書の提出時

※ 住基カードの発行には、本人が印鑑とカード作成代の500円を持参する必要があります。写真もこちらで撮影します。

大変便利のいいものですが、サービスを受ける際には本人を確認できるものを提示する必要があります。もちろん、「住基カード」も使えます。

問い合わせ ふれあい生活課 ☎76-3802

## 毎週金曜日は午後6時まで



### ふれあい生活課と税務課の窓口延長

初めて知った、という人も多いのでは。住民サービス向上を目指した「窓口延長」。

そのあり方を探ろうと、4月から9月までの毎週月曜日、ふれあい生活課と税務課の窓口を試行的に午後6時まで延長していました。しかし、半年間の実績は、ふれあい生活課15人（19件）、税務課2人（3件）と低調。利用者からは「大変助かる」など好感を持って受け止められたものの、「現時点では、需要が少ないのか、延長時間に問題があるのか、などの検証ができない」と関係者。3月まで試行期間を延長することにしました。今回は毎週金曜日で、ふれあい生活課と税務課の窓口を午後6時まで開けます。

ただ、周知不足だったことは確か。「広報このえ」でも試行が始まった4月号でお知らせしただけでした。この点は反省。今月からは毎月お知らせします。

3月31日までの毎週金曜日（祝日の場合は木曜日に前倒し）、ふれあい生活課と税務課の窓口時間を午後6時まで延長し、各種証明書の発行業務を行います。ただし、発行できない証明書もあるので、事前に電話で確認をお願いします。

問い合わせ ふれあい生活課 ☎76-3802  
税務課 ☎76-3803



## 息詰まる論戦を期待



### 議会一問一答方式

町執行部と議会が活発に議論することは「自律に向けたまちづくり」に欠かせないこと。

九重町議会では、9月に行われた定例議会から「一問一答方式」を導入。町村では全国的に珍しいこの方式、議会活性化に向けた新たな取り組みとして期待が集まっています。

定例議会ごとに行われる一般質問は、町政全般について議員が質問をしたり意見を述べたりしながら町長や関係課長の説明を求めるもの。これまでは「（質疑は）同一の議題について3回を超えることができない」と議会会議規則で定められていました。このため、一度に複数の項目について質問・答弁をすること（一括質問・一括答弁方式）で、論点がぼやけたり、答弁が抜け落ちたりといった問題が起ころがち。傍聴者にとっても、質疑の内容が判りにくいといった欠点がありました。

「一問一答方式」は、質問回数制限を設けず、一つひとつの質問に対し、その都度執行部が答弁することで、論点が明確となり、より中身の濃い答弁ができるほか、傍聴者にとっても判りやすいものとなりました。

同議会では2000年より12月定例議会の一般質問を夜間に開催するなどの取り組みも実施しています。



## 絵本で子育て、どうですか？



### ブックスタート

絵本を通じて赤ちゃんと保護者が楽しい時間を持つのを支援するブックスタート。九重町でも今年度から開始。すでに24組の親子へ赤ちゃん（約2ヵ月）訪問時に母子保健推進員から絵本2冊がプレゼントされています。九重町では、これに加え4、7、10ヵ月の健診や相談時に「絵本で子育て支援」の取り組みが続きます。



4ヵ月健診のときには、ボランティアによる「よみきかせ」や図書館の紹介。9月14日の同健診でも8組の親子が絵本「じゃあじゃあびりびり」のよみきかせを聞いたり、絵本についての話をしたりしました。母親の一人は「いただいた絵本は子どもが大変気に入っており、絵をじっくり見るし、最近は持ちたがるんですよ。この取り組みはすごくいいですね。私もこれからたくさん絵本を読んであげたいと思っています」。一方、よみきかせをした側のボランティアは「4ヵ月児でも、ものすごく反応があり、絵本の力を改めて感じました」。この日、全員が九重町・図書館の利用者カードの申し込みをするなど、ブックスタート効果は早くも出ているようです。10ヵ月児相談時には絵本がもう一冊プレゼントされます。

また、九重町・図書館では毎月第3土曜日の14時30分から15時まで「絵本のよみきかせ会」をしています。こちらも楽しい取り組みです。ぜひ、どうぞ。

問い合わせ 保健センター ☎ 76-3838  
九重町・図書館 ☎ 76-3888

## 慣れば面倒ではありません



### 発泡スチロールの分別収集

発泡スチロールの分別収集が始まって一年半。最近は月あたり平均334キロの搬出が続いています。目方の割にはかさばることを考えると、相当量が収集できているようです。まずは順調な滑り出しですが、まだまだ十分な周知が行き渡っていないのも事実。燃えるごみと一緒に出している人も多いと思いますので、改めて。



分別収集をする発泡スチロールは「PS」の2文字が目印。これがついたものは、きちんと洗い、「色・柄物」と「白物」に分けて出してください。これで資源として活用できるようになります。「混ぜればごみ、分ければ資源」です。再商品化事業者により文房具や日用雑貨品などに生まれ変わります。また、再資源化することで、ごみ焼却場や埋め立て処分場の寿命を延ばすことができるのも大きなメリット。出すときは専用の袋（10枚で360円）がありますので、それを使用してください。最初は面倒だなと思って、慣れると案外そうでもないものです。収集日は月に1回。しかし、シールやラップ、接着剤がついたままだったり、汚れたままだったりというも中にはあり、焼却処分になってしまうケースもあります。もったいない。発泡スチロールの原料は石油。限りある資源を大切に。

ごみ分別の学習会も地域で開催できます。お気軽に声をかけてください。

問い合わせ 危機管理・町民安全課 ☎ 76-3801

## おじさんにも人気



### めじろんシャツ

売れに売れました。「めじろんシャツ」。めじろんは、2008年に大分県で開催される第63回国民体育大会と第8回全国障害者スポーツ大会のマスコットキャラクター。憎めない表情で人気上昇中です。

「めじろんシャツ」は、「ポロシャツ」「オックスフォードシャツ（綿シャツ）」の2種類（色は各4色）で大分県が企画。右胸にめじろんの刺繍が入っており、1枚2500円で個人が購入し、着用することで、税金を使わずに大会のPRをするのもねらい。

売り出しは6月。地球温暖化防止運動に乗り、「めじろんシャツでクールビズ」をキャッチフレーズにぐんぐん売上げを伸ばし、最終的には予想をはるかに上回る6,763枚で完売。着用率も高く、PR効果も絶大で、まさに満塁ホームランの企画でした。

実際着用している20代の女性に聞くと、「丸々したキャラクターがかわいい」。若者にはポロシャツ、中高年にはオックスフォードシャツがよく売れるなど、幅広い年齢層にアピールできたのも勝因。「めじろんシャツを着たおじさんってかわいい」と若い女性にも好感度高いですよ。いずれのシャツも年代を問わず人気のカジュアルブランドの品物を使用しており、「着心地がいい」という声もよく聞きました。

気になるのは、冬に向けた次の一手。しかし、すでに民間企



業がめじろんを使った商品を出していることなどから、トレーナーやジャンパーといったものを出す予定はないそう。おじさんたちは、ちょっと残念がな。

2008年大分国体では、九重町はホッケー成年男子・女子の会場になっています。活きいきランド多目的ひろばの人工芝の工事も11月には完成です。

問い合わせ 生涯学習課 ☎ 76-3823



▲工事中の多目的ひろば。芝の緑が鮮やかです。

## 高齢者福祉充実の起爆剤に



地域包括支援センターと介護保険



活動を開始してから半年。地域で自立し生活していこうとする高齢者を支える輪は「地域包括支援センター」からも徐々に広がっています。

誰もが直面する介護の問題を国民全体で支えようと2000年にスタートした介護保険。対象となる高齢者を軽度の「要支援」から最重度の「要介護5」までの6段階で要介護（要支援）認定。その上で、対象者の状況に応じたケアプラン（支援計画）を作成。階層ごとに決められた限度額以内であれば、サービス基準額の1割を負担した上で、訪問介護（ホームヘルプサービス）や通所介護（デイサービス）等を利用できるもので、40歳以上の人から集めた保険料や国などからの負担金で運営しています。

しかし、高齢化率の上昇に伴い利用者数も増えたことから3年ぶりに各市町村で保険料見直しを実施。合わせて制度そのものの大幅な見直しも行われました。

今回の見直しの最大のポイントが介護予防の強化。それまでの比較的軽度とされる要支援と要介護1の一部を新制度では要支援1、要支援2と位置づけ、要介護（要支援）認定全体を1段階増やし、7段階としました（右図）。九重町では、旧制度で要支援・要介護1の認定を受けていたのは全体の約半数で、そのほとんどが新制度の要支援1と要支援2に移行したことになります。今回の改正で一番の環境変化を受けたのはこの階層。まず、ケアプラン作成の主体となるのが新たに創設された「地域包括支援センター」になったことがあげられます。同センターでは、要支援1・2の認定を受けた人のケアプラン作成が主要業務のひとつとなっており、「制度改正でケアマネジャー（ケアプランを作る人）が変わったので、混乱した人が多かったようです。制度自体もより複雑化したので、利用者にとってわかりにくくなったという印象を受けます」と担当者。

それまで利用回数（時間）ごとに1割と定められていた通所介護や訪問介護の自己負担が、新制度では要支援階層になると一律の月額になったのも大きな変化。ただし同じ要支援といっても高齢者個々の状況は様々。あまり利用しない人にとっては負担増に、認知症が出るなどよりきめ細かな対応が必要な人にとってはサービスの絶対量が不足するといった事態が一部で発生。また、1ヵ月単位としたことで負担額が増加、本来必要なサービスを手控えるといった人も一部では出てきているようです。

伸び続ける介護保険給付費を抑えたいとの目論見（もくろみ）も今回の改正では見え隠れしています。担当課によると給付費は毎月8000万円台の支出が続いており、前年同月比では約3%減。しかし、昨年10月から始まった食事代の自己負担増などで減った分が前年同月には入っており、実質は、給付費減はないと見るのが妥当。高齢化率の伸びで利用者が年々増えているため、現在の認定者は約800人（うち約600人がサービスを利用）。

「ただ、今回の改正で介護予防という視点がより強化されたのは良かったです。対象者と一緒にケアプランを作るときも、そのことをまず念頭に置き、目標を共有することで、本人の意識も変わってくるし、家族も変わってきます。実際に予防の意

2006年3月まで	2006年4月から
要介護5	要介護5
要介護4	要介護4
要介護3	要介護3
要介護2	要介護2
要介護1	要介護1 要支援2
要支援	要支援1
非該当	非該当

図を理解し、日々努力、実践している人は多くいます。私たちも本人の意思に沿ったサービスになるように働きかけています」と前出の担当者。また、生活機能が低下し、介護の必要が出てくる恐れのある特定高齢者（現在約40人）に対する栄養指導や口腔機能の向上支援なども行っており、特に運動教室では、3ヵ月で目覚ましい効果が出た人もいるといいます。

地域包括支援センターは、保健師や社会福祉士、ケアマネジャーなどの資格を持った5人の職員を配置し、役場内に設置。現在、要支援対象となった162人への対応（うち124人分のケアプランを作成）だけでなく、高齢者の総合相談窓口の機能も持っており、生活や健康などの相談も受けています。役場内に設置したことで一部に相談しにくいといった声があるものの、問題解決に向け、保健福祉分野の枠にとどまらない行動が起これやすいなどの利点も。

「高齢者の出かける機会をたくさん作るなど、元気な高齢者を増やしていく仕組みづくりが必要だと思います。そのためには、保健福祉分野だけでなく公民館などの生涯学習をはじめとした町全体が手を組む必要があります。そう考えると、これで、まちづくりと言っても良いテーマですよ」

九重町では3人に1人が高齢者。認知症の高齢者が増えているといいます。生きがいをもって暮らす高齢者が増えれば地域が活気づくし、そのことが認知症や介護の予防につながるのには確か。しかし、現状では移送サービスの不備など課題も山積み。高齢者福祉充実の起爆剤。そんな役割も地域包括支援センターに期待です。



▲地域包括支援センター

問い合わせ 地域包括支援センター ☎76-3821

# 子どもの減少は直視せざるを得ない 学校再編についての答申



短期計画で4つの中学校を1校、中期計画で小学校4校（各地区1校）への再編をめざす。

昨年7月から町や教育委員会からの諮問（しもん）を受け、町内の学校再編について協議を続けてきた「九重町学校再編検討委員会」（藤澤昌由委員長、12人、15回開催）の答申書（全8ページ）がまとまり、9月28日に坂本町長、若松平八郎教育委

員長、佐藤教育長の三者へ手渡されました。

委員会では、先進地視察や学校施設の実態調査、授業見学なども実施。町内の1学級あたりの平均は小学校17・4人、中学校26人で、小規模校にはきめ細かい学習指導ができる利点がある反面、学習意欲や集団思考、問題解決的な学習の低下を招いていると指摘。義務教育9年間で学級編成替えが一度もない学校が多くあり、ある中学校では「ほとんど話したことがないクラスメイトがいる」と答えた生徒が45%を超えるなど人間関係の固定化を懸念する数値にも着目。学習環境の面では、「小学校は1学級の児童が少ないほうが望ましい」としたものの、中学校は「教科担当制や英語教育が加わるなど、生徒の興味や関心、能力等が多様化する時期であり、また部活動も重要な意味を持つ」と、教師をはじめとした教育環境の充実が特に求められるとしました。

当初、委員会では「最初から統合ありきではなく、子ども達にとってより良い教育環境づくりをめざすこと」を原則としたものの、減少する児童生徒数という現実の前には「統合・再編」は避けられないとの空気が濃厚だったようです。1963年の3,899人をピークに児童生徒数は減少の一途をたどっており、現在は903人で、6年後には690人まで減少の見込み。町が策定した「自律推進計画」や「行財政計画」も反映、「九重町の状況に即した適正規模、適正配置（答申書より）」を

学校数減により実現するのが妥当としました。

具体的には、小学校については准園小学校の普通教室を除き1981年度以降に耐震補強などの改築工事を実施しており、新たな設備投資をする必要性もないことから「可能な限り地域に残す」とし、中期計画で各地区1校・町内4小学校への再編を目指し、長期計画で、既存施設の再度改築等の整備が必要となる時点でさらに適正規模・配置を目指すとなりました。

一方、中学校については、効果的な教育活動をつくるためや老朽化が顕著な校舎等の改築の緊急度も高いことから短期計画で現在の各地区1校を町内1校に統合するのが望ましいとしました。

答申書を手渡した藤澤委員長は「町当局や教育委員会が方針決定する際の礎になればと思います。これを機に本町の学校教育のあるべき姿を住民全体で考えて、次代につなげることを期待。できる限り住民の理解協力を得ることで、これからの展望を開いてください」。また、委員会も一枚岩で「統合・再編」に向かって進んだというわけではなかったようです。「様々な意見が出、どうしてもかみ合わないところがあった」と藤澤委員長。地域の中の学校のあり方をめぐっては、「人数が減ったから再編というのは短絡的。教育は量で片付けるべきでない。子ども達と一緒に地域を残していく取り組みも必要」と、地域とともに進める教育

## ■町内の小中学校の現状 (2006年5月1日現在)

小学校	児童数	中学校	生徒数
東飯田小学校	156	東飯田中学校	73
野上小学校	133	野上中学校	72
野矢小学校	15	飯田中学校	77
飯田小学校	128	南山田中学校	90
准園小学校	77		
准園小学校栗原分校	休校中		
南山田小学校	82		



**NOTE** 小中一貫教育とは  
小学校、中学校それぞれの枠組みの中で取り組んでいる教育内容などを、義務教育9年間の大きな枠で見直す。発達段階に即した系統的・継続的な学習指導ができるや小学校から中学校への進級時の不安を和らげるなどの効果があるとされる。

**NOTE** まちづくり条例とは  
住民参加のあり方や、住民、議員、町の役割と責務などを定めたもの。「住民は諸計画の策定・実施・評価の各段階に参画する権利を有する」とある。町制施行50周年にあわせ、2005年2月1日に施行。

# “夢”で膨らむ

## 九重町平成17年度決算

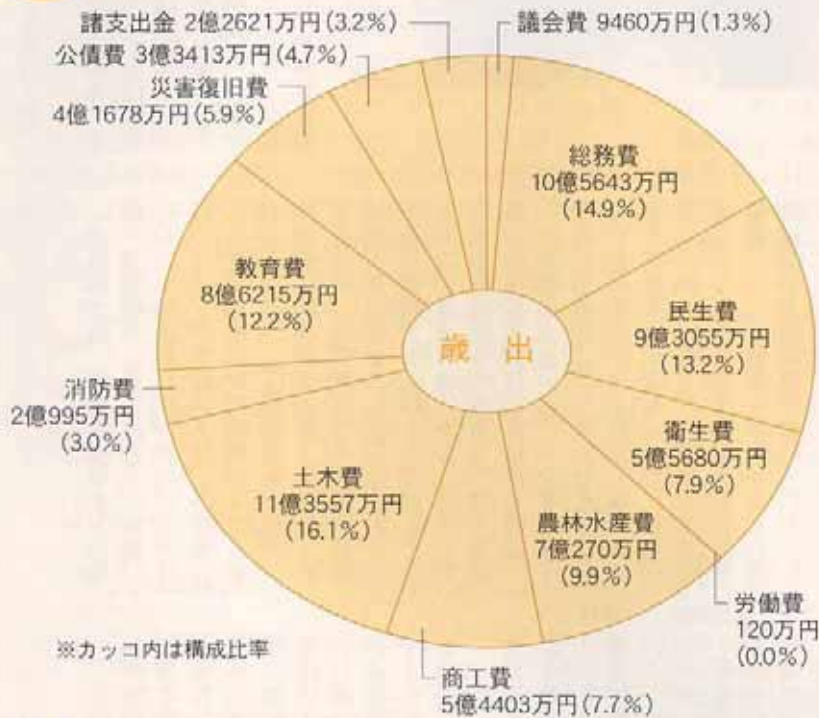
自律に向けたまちづくりは順調に進んでいるのか。その判断材料のひとつとなる平成17年度の九重町の決算が明らかになりました。

### 歳出 70億7110万円

■一般会計の歳出総額は前年比4.1億円増

17年度の歳出総額は70.7億円で前年と比べると4.1億円増えています(6.2%増)。これは、九重“夢”大吊橋(1.9億円)や恵良住宅2期工事(3.6億円)、南山田小学校大規模改造工事(1.8億円)、さらには災害復旧事業(2.8億円)と大型事業が続いたことによるものです。これら大型事業が終了した今年度は当初予算額62.2億円とぐんとスリムになりました。

歳出に合わせ歳入も74.4億円で前年比3.9億円増えています(5.5%増)。内訳を見ると後述する地方交付税や災害復旧関連の補助金等、“夢”大吊橋に伴う町債などが増えています。一方、町税などの自主財源はほぼ平年並みの24.9億円(歳入全体に占める割合は33.4%)。今後は自主財源をしっかりと増やし町の「財政力」を高めることが大切。その点でも“夢”大吊橋で歳入が膨らむに期待したいところです。



### 歳入 74億3966万円

えっ、地方交付税が増えた?

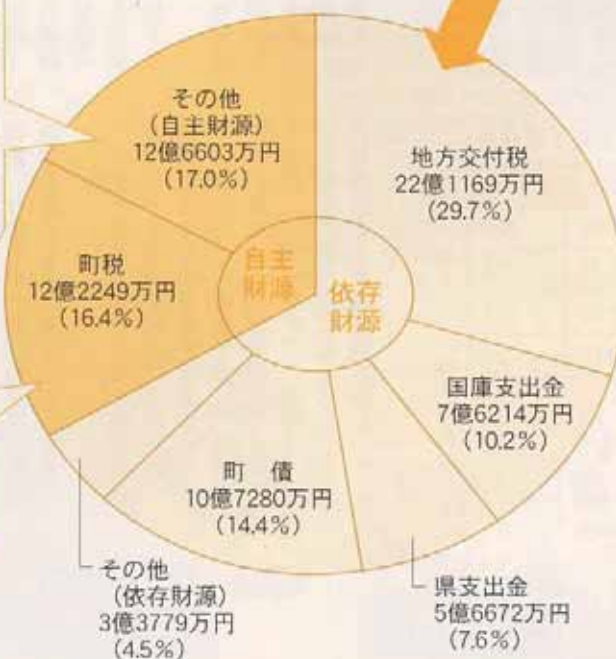
地方自治体にとって、もっとも大きな収入となるのが地方交付税です。地方交付金といったほうがわかりやすいかもしれませんが、使い道の決められた補助金とは違い、使い道が制限されていない国から交付されるお金で、九重町では収入の約30%を占めます。「地方交付税頼み体質」からの脱却は全国の過疎自治体の共通課題。しかし、代替りのものが見つからないのも実情。ここ数年、①地方交付税の削減②国からの補助金等の削減③地方への税源移譲をセットとする三位一体改革が進められてきましたが、①と②が進んだだけで、③が十分でなかったといわれます。改革に合わせ、地方交付税の削減が続いていましたが、17年度は前年比1.1億円増。国の財政改革で補助金が削減された見返りや、町税などの収入があまり伸びなかったことなどが考慮されたものです。ただ、国の財政悪化などで地方交付税削減の大きな流れは変わらないと考えるほうが妥当です。

●その他(自主財源)の内訳

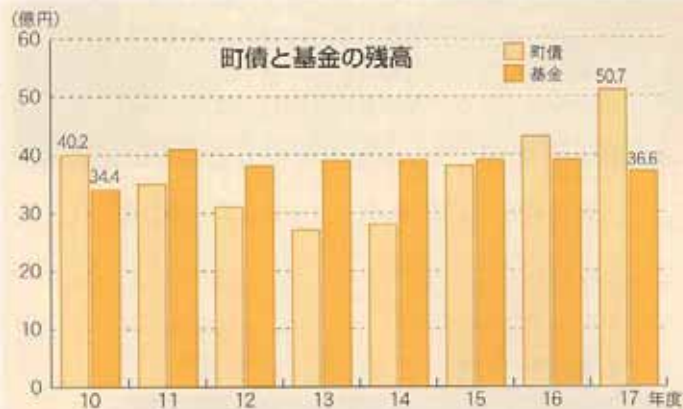
分相金・負担金	7371万円
使用料・手数料	1億1745万円
財産収入	1億2518万円
寄附金	353万円
繰入金	6億1869万円
繰越金	2億2386万円
諸収入	1億361万円

●町税の内訳

町民税	2億9624万円
固定資産税	8億1374万円
軽自動車税	2676万円
町たばこ税	5473万円
入湯税	3102万円







### 九重町がトップ。しかし・・・

大分県内の市町村の17年度決算状況が10月5日に発表されました。財政指数を見ると、経常収支比率（県平均92.7%）、公債費負担比率（同18.1%）とも九重町がトップ。一方で合併後2年目を迎えた新市も財政状況が改善されています。

担当者は「全体の改善基調の中、トップとはいえ九重町は数値が悪化しています。地方交付税制度の見直しなどが検討されており、予断を許さない状況が続くので、より緊張感をもった運営をしなければならない状況です。」

### 経常収支比率が悪化

決算指数で最も注目すべきなのが「経常収支比率」。財政のゆとりを見る数値で低いほど良いとされます（詳細についてはNOTE参照）。17年度は86.4%で、16年度比1.2%の上昇（悪化）。昨年策定した「自律推進計画」では、人件費や補助費などを下げるなどで17年度の経常収支比率を82.9%にするとしていましたが、実際は3.5%高い（悪い）結果となってしまいました。人件費抑制をはじめとした行政改革は、ほぼ計画通り進んでいるものの、国の制度によるものや義務的経費が増えたためです。

**NOTE** 経常収支比率とは  
町税・地方交付税など毎年決まって入ってくる使いみちを制限されない収入に対して、一般財源の中の毎年決まって支出しなければならない経常的経費（人件費・公債費・扶助費など）がどれだけ占めるかを表す数字。この割合が低いほど、財政上のゆとりがあり、柔軟な対応が可能となる。

### 公債費負担比率は堅調

「公債費負担比率」も財政判断でよく使われる指数。自由に使えるお金（一般財源の総額）に占める、その年に返済する借金の割合がどれだけかを示すもので、経常収支比率と同様、低いほど良いとされます。借金の返済は少ないほど良いのは町も家庭も同じというわけです。17年度については6.7%。前年度の6.1%より若干悪化したものの、健全な数値です。

### 貯金が減って、借金が増えて

町の貯金に当たるのが基金、借金に当たるのが町債です。町債が増えたのが気になりますが、「基金の取り崩しは慎重に、町債返済は早めに」の姿勢に変わりはありません。基金のうち約3割が借金を減らすためのもの（減債基金）というのも九重町の特徴。町債の返済が負担になることがないように計画性を持った財政運営をしています。前項の公債費負担比率の健全さもその現れ。また、町債の多くは後に地方交付税（国から交付されるお金）で繰り入れられるものです。今後も借金をする場合にはこのような有利な起債を優先的に使うことが肝心。財政が苦しい中ですが、将来に備えた積立も少しずつしています。

### 基金の内訳

基金名	残高(億円)	説明(カッコ内は一般家庭でたとえると)
財政調整	4.3	予算の調整(自由に使える貯金)
みろさと創生事業	7.1	自由に使える(自由に使える貯金)
減債	10.5	借金を減らすため(借金返済)
町有施設整備	10.7	施設整備など(家や車購入のための貯金)
福祉・地域振興	2.4	社会福祉目的(その他貯金)
その他	1.6	スクールバスや環境整備など(その他貯金)
合計	36.6	

### 特別会計

九重町の特別会計は、会計区分上6つ設置されています。特定の事業を行う場合に、特定の収入をもってその事業にあて、一般会計と区分して経理する必要があるため、国の制度や町の財政運営上の必要性等によって設置されたものです。

会計名	歳入	歳出
国民健康保険	13億1760万円	13億453万円
水道	1億4708万円	1億3412万円
同和住宅資金貸付事業	238万円	238万円
飯田高原診療所	8801万円	8791万円
老人保健	15億3206万円	15億3206万円
介護保険	11億1165万円	11億711万円



## Theとっちよくれ祭 in やま



農業は絶対にカッコいいぞ

「田舎が大好きです！」  
そんな元気な声がかえりきそうな交流会でした。  
郡内の農業後継者で構成する「玖珠郡農村青年連絡協議会」の農業体験交流会「Theとっちよくれ祭 in やま」が9月9日、10日の2日間、飯田高原を中心に行われました。

同協議会では消費者との交流を重要な取り組みのひとつと位置づけており、昨年はブルーベリー収穫や酪農体験などを盛り込んだ「ベリーベリーベリー」を3回にわたり開催。延べ60人が参加する大盛況でした。

「内容自体の充実度は安定してきたので、自分が得意な農業と一緒に体験しながら、作物の説明や農業の魅力、苦勞を消費者のみみなさんに後継者が自分の声で伝えることが今回の重点」と関係者。企画・運営はすべて後継者の手で、2ヵ月前から準備を始め、パークプレイス（大分市）でのチラシ配布（2回）やラジオに出演するなどして参加を呼びかけたところ、大分市や由布市などから

14人の女性が参加。うち4人が既婚者で、食育を想定した家族連れの参加も今後は考えていきたいと話していました。

宿泊所となったカナディアンビレッジ（田野）での開村式を終えた参加者は、さっそく近くの杉山秀樹さんのほ場へ移動し、ミニトマトやトウモロコシ、キャベツなどを収穫。糖度がスイカ並みの8.5あるミニトマトをはじめとした現場で食べる野菜のおいしさに参加者は驚きの声を上げていました。

このほかに牛飼いやバター作り体験、星空バーベキューと盛りだくさんの2日間。収穫の仕方やおいしい野菜の見分け方など「お得な情報」もいいタイミングで後継者から出ており、参加者は大満足の様子でした。

「青年が農業をする姿は絶対にカッコいいと思うんですよね。そこらへんも見てほしいです」

後継者の一人はこんなことを話していました。

九重グリーンツーリズム研究会がこれまで受け入れた児童・生徒の写真や手紙など約60点を9月中旬、役場ロビーに展示しました。同研究会は2001年結成で、現在会員は48人。

「子ども達が普段学校で見せないようないい顔をするんですよ。これをみんなに見てもらいたいなあと。この活動をもっと知ってもらいたいというのがありますね」と会長の安達道康さん（竜門・写真右）。

グリーンツーリズムは農作業体験やイベントなどを通じて都市と農山漁村が交流をするもの。内容によりいくつかのタイプに分けられますが、同研究会は、自らの進む方向を「教育への貢献」としており、農業体験だけでなく、それを含めた農村体験をしてもらうのがポイント。同研究会事務局長の佐藤吞夫さん（滝上・写真左）はこう話します。

「農村で普通に暮らし、普通に考えたことが子ども達の教育に役立つことに気付いたんよね。農作業だけでなく、要は田舎の生き様を教えること。前から九重町に住んでいる人だけでなく、ここに移住してきた人もグリーンツーリズムの担い手になるんよ」

農村でしがらみという重い荷物を持ちゆっくりとしか歩

## いい笑顔をみんなに



けなかった私たち、そのしがらみの中にたくさんの宝物があることに気が始めた都会の人たち——こんな文面ではじまる今回の展示。「ほくにとって本当の父親のようだった」「命を大事にすることを守れるようになりたい」「人の目を見て話す努力をしている」といった子ども達からの手紙が紹介されていました。また、教師を目指す大学生からは、「今回の体験以来、教師になりたい、ならなければ、という気持ちが一層高まりました」。

## いただいた命を一生懸命

### 最高齢者訪問



100歳と101歳、とても元気です。  
町内の男女それぞれの最高齢者を9月14日に坂本町長が訪問。両手切断を乗り越え詩画家となった大野勝彦さんが描いた二人の似顔絵とタイをかたどった砂糖菓子を贈り、長寿を祝いました。

熊谷仙市さん（日向）は100歳。耳が遠いのとひざの調子が悪い以外は、大変しっかり。新聞や雑誌を読んだりするのが楽しみで、「政権と皇室制度の行方が気になります」。若い頃から酒やタバコをやらず、山の見回りをよくしていたのが長寿の秘訣。90歳代まで農作業をしたほか、99歳のときは玖珠町四日市の娘の家までバスに乗って遊びに行くなど、驚きのエピソードが多数。現在でも病院にはかかっていないそう。50歳を筆頭に孫が8人、25歳を筆頭に曾孫が15人、名前を覚えるのも一苦労。坂本町長が「また来年来ますから」と言うと、「ごめんなさいね」と笑顔を見せていました。



時松ユズ子さんは101歳。町内中村上出身でシルバーランドメルヘンに入所しています。車椅子生活ですが、食事もちんととっており、生活のリズムも規則正しく、「健康で、特に問題ない」と施設関係者。日中は入所者の話を聞いたり、自分でできる作業をしたりしてすごしているそうです。坂本町長が訪れた日は、「おめでとうございます」と書かれた看板が準備され、入所者や施設職員、時松さんの家族が集まり、数え年でお祝いをしました。息子の時松峰雄さん（写真右はし）は「施設の人から心のコもったお世話をいただいて、とても感謝しています。母には、いただいた命を一生懸命生きてもらえれば、それ以上のことはないです」と話していました。

## ひとりでも、きっと大丈夫

### ひとり暮らし老人の集い

昼食会や地域の人たちとの交流、仲間作りを通じて、健康で活力のある老後を過ごしてもらおうと、町内各地区で「ひとり暮らし老人の集い」が行われました。

約20年前から民生・児童委員が毎年9月に取り組んでいるもので、東飯田地区では9月12日に下旦公民館で開催。同地区では93人のひとり暮らし老人がおり、そのうち66人が出席。開会行事で同地区協議会代表の佐藤信義さんは「み

なさん顔色が良くとても若々しい。今日はゆったりと楽しく過ごしてください」。

お楽しみ会では東飯田こども園の3歳から5歳の幼児43人が登場。老人一人ひとりに寄り添い、肩たたきをしたり一緒にわらべ歌を歌ったりしました。突然の訪問者に参加者は「とてもかわいい」と目を細めていました。このほかに民生委員による出し物やアコーディオンを伴奏に合唱、最後は盆踊りで締めと楽しいひとときを過ごしていました。

町内のひとり暮らし老人は366人。高齢化率（現在32.9%）の上昇に伴い、増加傾向にあり、不安に思っている人が多いなど見守り対策の充実が求められています。





町内のグループホーム「南の風」による「雨ふり」。78歳から94歳のみなさんが長靴をはいて歌いました。



サムタイムズ。左から宇田光将さん、斉藤隆博さん、帆足政広さん、山岡博幸さん。



ルーシー。左から今村智彦さん、佐藤智之さん。

## みんなで作って、大成功

共助

この企画、大ヒットです。「みんなでつくる童謡・唱歌コンサート」が8月26日に九重文化センターで行われ、約450人が会場を訪れました。このコンサートの原動力のひとつとなったのが、ある危機感。長年親しまれてきた童謡や唱歌が教科書から次々に消えていく事態に「もう一度、そのよさを見直そう」と中学校教師・白石恭子さんが中心となり第1回のコンサートを開いたのが2003年1月。以来、5回目となる今回まで、地元住民がステージに立つ手作り感、会場との一体感を大事にするといった変わらぬスタイルで続いています。会場がいつも満員なのも特筆すべき、童謡・唱歌見直しの輪は確実に広がっているようです。

今年のテーマは「未来に向かって」。開会行事で実行委員長の白石恭子さんが「時代が変わっても私たちの心に残り変わらないもの、童謡・唱歌を心込めて次の代に伝えていきたい。みなさんが主人公。一緒に盛り上げてください」とあいさつ。31組260人が約3時間にわたり55曲を歌い継ぎました。

会場では一緒に口ずさむ人の姿も多く見られ、暖かく元気なステージを楽しんでいました。



自律のまちづくりに向けて、「自助」・「共助」に該当する取り組みには、このマークをつけています。

## News



## Scrap book

各分野から寄せられた二コースを集めました。

## みんなの気持ちで、子どもの未来

「こんなに集まっていたら、本当にびっくり。とてもありがたいです」会場に集まった約250人がかもし出す暖かな雰囲気会場を包んでいました。

チャリティーコンサート「おまえが大きくなったとき」が9月9日、九重文化センターでありました。

子ども達の健全育成のため、町内のアマチュアバンド「サムタイムズ」、「ルーシー」が行っているもので、今年で3回目。これまで文化センター大会議室を使用してきたものの、手狭になったことと自分たち自身ももっと楽しもうと今回から大ホールにステップアップ。当日は大雨で集客が心配されたものの、予想以上の大入り。サムタイムズの斉藤隆博さん(上段)は喜びの表情で「子どもの健全育成への関心が高くなっていることの現われかなと思います。自分たちも手こたえを感じています」。

ギターデュオのアンサンブルの妙を生かした楽曲や洋楽のカバーなどを取り上げた2人組の「ルーシー」、懐かしいフォークソングのカバーを得意とする4人組の「サムタイムズ」、それぞれが50分・約10曲のステージを披露。本人たちも「気持ちよく演奏できた」と大満足。観客からは惜しめない拍手が送られていました。会場には子どもの姿も多く、前出の斉藤さんはステージ上から「一生懸命遊ぶ子ども達の姿がうれしい。おいちゃんたちも、あの子達が大きくなるまで、がんばらないかねと思っています」と語りかけていました。

今回のコンサートで集まった収益金で両バンドは、DVDプレーヤー4台やお絵かき帳140冊、ボール、タオルなどを購入、町内のこども園などに寄付をしました(写真一番上)。

「心からみなさんに感謝です。ありがとうございました」とメンバー一同。

SCRAP

強い!

自助



この強さ、本物です。このえ柔道クラブ（佐藤勝司代表・12人）の快進撃が続いています。

第25回大分県少年柔道三重大会（第15回豊後大野市青少年健全育成柔道大会）が8月27日に豊後大野市で行われ、同クラブ5人が入賞（優勝2人・準優勝1人・3位2人）しました。「基本に忠実な柔道をし、よく練習したからこそ。これからはがんばっていきたい」と代表の佐藤さん。また、同クラブ出身の穴井智大（ともひろ）くん（野津中3年・栗原出身）と春花さん（同2年）の兄妹（写真手前）が大分県代表として8月19〜22日に高知県南国市で行われた第37回全国中学校柔道大会に参加。二人とも初の全国大会で「緊張しました」。智大くんは中学卒業後も柔道が続ける予定で「目標はインターハイ」。春花さんも「来年も全国大会や九州大会に参加できるようにがんばりたい」と話していました。

町内では中学校に柔道部がなく、柔道が続けようとするれば他郡の中学校へ進学するしか選択肢がないのが現状。「親や子どもにとって負担が大きい。他の運動部と同じように中学生になっても柔道が続けられるような環境を作るのが課題」とクラブ関係者。各中学校や教育委員会へ要望していきたいと話していました。

このえ柔道クラブでは、現在部員を募集しています。練習は毎週月・水・木の夜7時から九重柔道場（野上小学校横）にて、問い合わせは代表の佐藤勝司さん（☎781-8700）まで。

魅せました、笑わせました、泣かせました

共助

SCRAP



▲「普段緑のない衣装を着ることができるのも楽しいです」。本番前の控室。

宝泉寺素人芝居定期公演が9月16日に宝泉寺温泉街特設会場で行われ、約300人が集まりました。旅館や商店の経営主、会社員などで構成する宝泉寺素人演芸同好会（松尾博道会長、24人）が主催したもので、今年は、会員の舞踊を途中に挟みながら、「剣劇・母恋三度立」「人情劇・子別れ傘」を披露しました。いずれも「泣かせ」に重点をおいた時代劇。会員は橋劇団（日田市）の指導を受けながら9月上旬から連日深夜まで練習。本番では、息のあった演技を見せ、今年のキャッチフレーズ「魅せます、笑わせませす、泣かせませす」の公約をしっかりと守りました。

会員の一人は「お客さんに拍手をもらうのはもちろん、化粧をして、役にはまっていける快感。そんなところが魅力ですね」。

同公演は、国鉄宮原線の廃止が決まり同温泉への観光客の減少が危惧されたことをきっかけに始まったもので、24回目。会員の高齢化といった課題を抱えているものの、25回記念は「OBや町関係者などに呼びかけながら、盛大なものにしたいですね」。

200メートル離れても聞こえる笑い声

SCRAP



共助

桐木八幡社祭典が9月18日に桐木大組クラブでありました。桐木1から4までの行政区が合同で「敬老祝い」を兼ねてこの時期に毎年行っているもので、豪華10本立ての演芸が見もの。

30年以上前から続くこの催し、企画・運営は、行政区ごとの持ち回りが決まりで、演芸も考えなければならぬというから大変です。今年の担当（座元）は桐木4。1カ月近くかけて準備を進めました。毎年訪れているという坂本町長は「何が出るかといつも楽しみ。和気あいあいのコミュニケーションをとりながら、高齢者を大事にし、若者もいきいきする地域をつくってください」。

演芸は小学生から高齢者まで総出演。歌あり、踊りあり、ゲームありの楽しい約2時間。取りは姫島村出身の人を講師に練習したという「あぶらあげ踊り」。キツネに扮し、油揚げをぶら下げた傘をもち踊るユニークな出し物に集まった1000人は大いに盛り上がりました。

祭りの中で、会場から200メートル離れても笑い声が聞こえていました。来年の担当は桐木1。さぞかしブレッツィンチャーとなっていることでしょう（笑）。がんばってくださいね。

## 伝えなければならない歴史

SCRAP



平成18年度九重町戦没者追悼式が9月13日に九重文化センターで行われ210人が参加、九重町出身の戦没者535人の追悼をしました。

坂本町長は「九重町の礎（いしずえ）は戦争のない平和な社会があつてこそ、世界の恒久平和のため努力していきたい」と改めて平和への誓いを述べました。来賓による追悼の言葉などがあつたあと参加者一人ひとりが登壇し、花を手向け戦没者の霊をなぐさめました。

今年には戦争が終わって67年。参加者の大半が60代から70代。その数も年々減少しており、戦後の長い年月を反映しているようです。

「二度と戦争を繰り返さないように、しっかりと歴史を次代に伝えなければならない」  
そんな声が会場で聞かれました。

## 平和への誓い、改めて

SCRAP



二度と戦争の惨禍を繰り返してはならない。改めて誓いました。  
松岡公園（東飯田）にある慰霊碑の補修作業が9月12日に行われました。  
この慰霊碑は昭和が終わったのを機に平成元（1989）年8月建立。明治から昭和にかけての戦争で、外地へ出征しふるさとに帰ることのなかった下且地区出身者28人の名前が刻まれています。  
当時、建立委員会のひとりを中心となつて動いたのが松原常喜さん。その後慰霊碑の充実を気にかけて、多くの碑で採用されている砲弾型の柱の準備もしていたものの、志半ばで昨年逝去。今回の補修では息子の豊海さんがその意志を引き継ぎ、柱を立てました。  
作業には約10人が参加。そのうちのひとり「戦争の記憶のある人が年々少なくなっています。平和の尊さをしっかりと伝えていきたいと思えます」  
現在、慰霊碑は同地区の青壮年会が管理しており、毎年盆踊りの際に法要を行っています。

## 道路清掃でもっと身近に

SCRAP

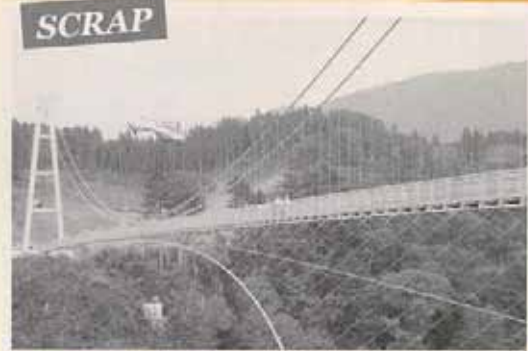
共助



仕事以外でも地域とともに、玖珠郡信用組合職員のみなさんによる道路清掃作業が9月2日朝、南山田地区一帯で行われました。新学期シーズンにあわせ年2回、郡内を地区ごとに巡回して実施しているもので、この日は28人が参加。6班に分かれ約半日、スクーリングゾーンを中心にカーブミラー磨きやこみ拾いをしました。  
このうち、カーブミラー磨きは事前に下見をしたうえで約150カ所を効率的に巡回角度がずれたところが意外と多いのが気になると職員の一入。  
「ピカピカのカーブミラーを見ると、自分たちも運転をされていて気持ちがいいです。子どもたちの交通事故がなくなってほしいですね」

## “悪夢”のないことを願って

SCRAP



オープンを直前に控え九重「夢」大吊橋で9月21日、大規模な救助訓練が行われました。橋の中央付近から男性観光客が谷底に転落、それを見た別の観光客が管理事務所に通報したことを想定したもので、地元消防団や警察、消防、吊橋関係者など約80人が参加。地上部隊、ヘリコプターを使っての上空部隊の二手に分かれ捜索し、発見した転落者を吊り上げ搬送するまでの約3時間、訓練は行われました。地上部隊に参加した人は、「転落者のいる現場までは約40分かかった。足場の悪いところが多く、急斜面に木が生い茂っている。実際の捜索は気象条件などにより、相当な困難が予想される」と話していました。一方で今回の訓練により、難しいと思われていたヘリコプターでの捜索が可能なのが立証できるなどの収穫がありました。  
夢「大吊橋では、夜間閉鎖の際の侵入者には、サーチライトで照らし、警告を発するなどの転落防止対策も講じています」

## 九重観光大ヒット

SCRAP



県内の観光関係者などで構成されるツーリズムおいた(桑野和泉会長)の観光宣伝隊約300人が9月5日、6日の2日間、ヤブドーム(福岡市)周辺で物産展やイベントを開催。大分の魅力アピールしました。

九重町からは観光協会や行政関係者、キャンベーンレディなど19人が、1日目の「大分めじるんナイト」に参加。この日行われた「福岡ソフトバンクホークス」対「北海道日本ハムファイターズ」の観戦に訪れた人たちへ、観光パンフレットにバラ一輪を添え配布しました。福岡県で安定的な人気を誇る九重観光とバラのバッテリー(組み合わせ)は無敵。市町村の中で一番早くなくなる大ヒットとなりました。また、試合中も球場内の大スクリーンに「九重・夢大吊橋」の画像を流すなど、10月30日オープンに向けた「継投」もしっかりしました。九重観光完封勝利。

県の観光統計によると、九重町内を訪れる人の42・2%が福岡県からで、この割合は県内で最大となっており、九重町にとって福岡県は上得意様。一方、宿泊客数比率は5%(別府市44・9%、由布市89%)と低く、これを上げるのが今後課題になりそうです。

## ポニーと九州一周中

2人の若者がポニーと一緒に、徒歩での九州一周に挑戦しています。

町内の乗馬施設エルランチョウグランデの職員、茂山哲さんと吉田裕章さん、そしてポニーのシバちゃん(18歳)で、お金を持たず野宿生活を続けながら、約3カ月かけて九州を一周(1500キロ)。各地の身障施設などを訪問し、馬にふれることで癒しを与える「ホースセラピー」を実施するとともに、若者が目的を達成することで、地域の人々に勇気を与えたいとしています。

茂山さんは役者を目指しており、「人との出会いを糧に今後の役者人生につなげていきたい。不安はありません」。一方の吉田さんは「自分を励ましてくれた馬の癒す力をもっと知ってもらいたい。旅先でいろんな人とどう関わられるのを楽しみます」。

九重町を出発する8月26日には、エルランチョウグランデで出発式があり、地元小中学生の乗馬クラブ「飯田ライディングチーム」など約60人が見守る中、元気に出発しました。

行程は九州北部から逆時計回りに別府、北九州、福岡、佐賀、長崎を経て、九州南部へと進むコース。10月4日現在、熊本市内を移動中。これまで50カ所以上の施設を訪問するなど順調な旅を続けています。

SCRAP



SCRAP



### 大会結果

地区	優勝	準優勝	3位(2チーム)
東飯田	奥野A	駅通り	奥野B・書曲B
野上	坂上クラブB	中央5	中央1・坂上クラブA
飯田	須久保	安川	釜の口・荻約下
南山田	暴坊B	ひまわり	福寿・カサブランカ

## 清く、正しく、元気よく

住民一人ひとりの健康増進などを目的に「健康まつりゲートボール大会」が8月17日から9月19日まで、各地区で行われました。この大会も24回目。すっかりおなじみとなっており、今年は全町で125チーム733人が参加しました。

南山田地区では、44チームが参加し9月19、20日に実施。19日の開会行事で坂本町長は「健康に勝る宝なし。そのためにも平素の運動を」とあいさつ。その上で「今日は敬老の日ですので、若い人は高齢者の人に負けてあげるような試合を」と述べると、選手からは賛同(?)の笑いと拍手が出ていました。

「ルールを守り、呼ばれたときは大きな声を出し、玉のところへは走っていき元気をアピールしよう」という大会関係者の呼びかけどおり、試合では和気あいあいかつ元気いっぱいプレーが繰り広げられていました。

大会では、前年度に医療機関にかからなかった91世帯の表彰もありました。

九重町では全世帯の約70%が国民健康保険に加入しており、2005年度の医療費は8億8000万円、一人当たり22万円。高齢化の影響などにより、年々この額は増えており8月より国民健康保険税を上げました。

# 町の考えをお知らせします。 | このえ男女共同参画プラン(案)をめぐる

九重町では、「このえ男女共同参画プラン」を策定中です。その案ができましたので、8月から9月にかけて、住民のみなさんからの意見・提案募集（パブリック・コメント）をしたところ、2人からいただきました。今月と来月の2回に分けて、お寄せいただいた意見等に対する町の考え方を掲載します。

\*本人の希望により広報掲載は匿名とします。

## 意見・提言1 全体を通して

●よほど時間に余裕のある方か、日頃から積極的にこのような情報に関心のある方でなければ、このような分厚い資料（全66ページ、資料編31ページを含む）を一見しただけで自分自身の考えをまとめ、意見にして（たとえ案に関する一部分的なものだけでも）提出する作業は不可能に近いでしょう。毎日を気ぜわしく暮らしている一般庶民には無理なことと思います。現実的な意見募集のやり方とは思えません。

●このプランはそつなくお行儀よくまとめられているようです。しかしその反面、九重の地域性に基づいた視点での計画や方針が今一欠けているように感じます。例えば、女性の社会進出は、事業所に勤めに出ることがその象徴のように表記されています。九重の産業構造では、自営で農林業や観光業で活躍している、あるいは活躍の場を探す女性の位置付け等の盛り込みも欠かせないでしょう。また、解りにくいカタカナ外来語も多く見受けられます。カタカナ外来語は、ただ単に別途注釈をつけていればよいというものではありません。横文字表現を使用すれば、内容が高尚そうに見えると思われませんか。年齢や職住環境など幅広い層の住民のみなさんへのお知らせであるということを常に念頭において、公的情報の通知の仕方によって各住民間に生じる認識の度合いの格差を、最小限になるよう努めていただきたいものです。以上のことからお知らせには、平易な言葉を用い、住民が身近に感じている男女共同参画に関する話題の提供を、広報紙等で日頃から呼びかけて収集したほうが現実的で、住民の内発的発展性を帯びた建設的な意見が集積しやすいと思います。

回答 住民のみなさんの意見が、行政の政策等に反映されるよう各種計画策定段階で住民の意見を伺うために、住民意見の募集制度（パブリックコメント）を昨年度から制度化しました。住民に各種情報を提供することで、行政に関心を持っていただきたいと思います。しかし、この制度を、通過儀礼的に行政が町民の意見を聴取したと捉えるのではまったく意味がありません。今後もこの制度を活用しながらも、その他の方法を検討しながら町民の意見を把握していきたいと考えています。また、「出前講座」（→3ページ）も実施しておりますので、活用していただきたいと思ひます。

ご指摘のとおり、最近カタカナ外来語の表記が非常に多くなっています。今後は情報の提供者が、情報を受ける側のことを十分考え、極力わかりやすく記載していきたいと考えています。

住民と行政の協働の取り組みは、今日までの、行政の考え方・住民の考え方を大きく変えていかなければ実現しないものです。広報紙等を通じながら様々な情報や話題を提供しながら、ともに考え、ともに取り組める環境作りをしていきたいと考えています。

## 意見・提言2 女性職員の職域拡大と管理職等の登用について（26ページ）

①女性職員職域拡大と管理職等への登用  
・女性職員の職域を拡大し人材育成に努め、管理監督職への登用の推進を図ります。

●行政に女性の管理職がいれば、他の多くの女性の励みになります。（女性の管理職がいることで、広く女性全体に意欲と責任感が飛躍的に増大することが期待できます。そのシンボルとなる女性の管理職の実現を強く希望します。）

回答 現在女性の管理職はいません。しかし、過去に収入役や管理職等に女性を登用していますし、現状でも園長等に女性を起用しています。今後も男女に関係なく各種研修会等積極的に参加を促すとともに、自らの能力の向上に向けての自学の必要性を促しながら人材育成を図っていきます。その上で性別にかかわらず、能力に応じた管理職等への登用を図っていきます。

（次号へつづく）

## 10月のハート降る ♡「このえ」

みんな成長している

藤山田小笠原校教師 江藤 和恵

春、生活科で、スイカなどの野菜を植える準備をしました。2年生になって間もない子どもたちは、「初めて自分たちで畑を耕したー」とうれしそう。大事に野菜の苗を植えました。水をあげてお世話をしていくと、夏に小さな実ができました。すると、子どもたちは、毎日、進んで定規で長さを測り始めました。

ある日の帰りの会でのこと。友だちのいいところを発表しあうときに、「友だちのことじゃないけど、うれしかったことがある」と、手を挙げた子どもがいました。指名すると、「今日、スイカが一日に7センチも大きくなっていったので、頑張ったスイカさんを褒めたいです」と、うれしそうに言いました。すると、他の子どもも「そうやね」といって、自然に拍手がわきました。結局、そのスイカは、収穫直前に、先に野生の動物に食べられて、子どもたちは食べられなかったのですが……

命を粗末にするような「コースガ多い世の中ですが、命の成長を自分のことのように喜ぶ子どもたちの姿に、心が温かくなりました。見ていた私も優しい気持ちになりました。そして、改めて生きているものはすべて、日々成長していることに気づかされました。

伝えたい「ちよつといい話」「心あたままる話」をぜひお寄せください。町内各所に投票用のボックスを設置していますので、そこに投票するか「ハート降るこのえ」メンバーへご連絡ください。  
連絡先 佐藤明郎（☎76-2526）  
郵便の場合は次のところへ。

〒879-1489  
九重町役場企画調整課 広報グループ





# インフルエンザの季節がやってきます



●インフルエンザは肺炎などの合併症を起こす危険性が高い病気です。流行する前に予防しましょう！

### 予防のポイント

- 人ごみに行くのをさける
- 手洗いとうがいを心がける
- かかった人はなるべく外出しないようにする
- 十分な栄養と休養をとる
- 室内の乾燥に気をつける
- マスクを着用する
- 流行の1ヵ月前くらい（11月～12月）にインフルエンザワクチンの接種を受ける



## 高齢者のインフルエンザ定期予防接種のお知らせ

### 対象者

- ① 接種日に満65歳以上の人
- ② 接種日に満60歳以上65歳未満の人であって、心臓、腎臓もしくは呼吸器等の障害を有する人（かかりつけの医師にご相談ください）

### 接種期間

平成18年11月1日（水）～  
平成19年1月31日（水）まで

### 接種回数

1回

### 接種費用

1,000円（個人負担）

### 接種場所

玖珠郡内医療機関  
（郡外の医療機関での接種については開始され次第お知らせします。）

※①②以外の方は予防接種法の対象になりませんが接種を希望される人は主治医に相談しましょう。



問い合わせ 保健センター ☎ 76-3838

## 高齢者のインフルエンザ予防接種について（必ずお読みください）

これは高齢者一人ひとりのインフルエンザ発病と重症化予防を目的に行うものであり、左記①②の対象者のうち、予防接種を希望する人のみが適用となります。以下の内容を読んだ上で接種するかどうかを判断しましょう。

### ワクチンについて

接種回数は1回。インフルエンザの病原ウイルスは少しずつ変わることが多く、そのつど対応するものが選ばれています。また、ワクチンの効果があるのは接種後約2週間から約5ヵ月で、流行時期からも考えると12月中旬までに接種することが望ましいです。

予防接種後の副反応を起こさないため接種前の体温測定と予診票による健康状態のチェックが大切です。（予診票は医療機関の窓口にあります。）

### 重大な副反応

まれにショック、じんましん、呼吸困難、血管浮腫等が現れることがあります。これらはほとんど接種後30分以内に起こります。その他、ギランバレー症候群（主に手や足の疼痛・知覚異常・麻痺などの神経障害）、けいれん、急性散在性脳脊髄炎、肝機能障害、黄疸、喘息発作があらわれるなどの報告があります。

### その他の副反応

まれに接種直後から数日中に、発疹、じんましん、紅斑、かゆみが見られることがあります。発熱、悪寒、頭痛、倦怠感などを認めることがあります。通常2～3日中に消失します。局所症状として、発赤、腫脹、疼痛を認めることがあります。通常2～3日中に消失します。

## ツツガムシ病にご注意！

ダニの一種であるツツガムシの幼虫に、わきの下、胸腹部、陰部など柔らかいところを刺されると、発熱後3～5日後に淡紅色、粟粒大～あずき大の発疹が体にでき、顔面や四肢に広がり放置すれば死亡することもあります。予防と早期発見・早期治療が大切です。

**流行時期は11月・12月です。特に注意が必要です！**

予防するには、まず藪地、山林、草地などに立ち入らない！  
もし立ち入る時は・・・

- ①長袖・長ズボン・長ぐつ・手袋などを着用し素肌を出さない
- ②むやみに腰をおろしたり寝転んだりしない
- ③立ち入った後は必ず入浴し、ツツガムシの付着の可能性を考えて入念な洗浄を行う
- ④1～2週間後に発熱、発疹、リンパ節の腫脹などがあればすぐに医療機関を受診し、山林に立ち入ったことを申し出る

問い合わせ 保健センター ☎ 76-3838

## 薬と健康の週間 10月17日～23日

～知ってる？聞いている？お薬のこと～

### 正しい薬の知識5原則

- 1 説明書や薬袋をよく見て使用しましょう。
- 2 用法・用量を正しく守りましょう。
- 3 服用時間を守りましょう。
- 4 子どもの手の届かないところに保管しましょう。
- 5 日光・高温・湿気をさけて保管しましょう。



## 薬の110番 10月17日～23日（土日除く）

「くすり」についての電話相談に応じます。

お気軽にお問い合わせください。

受付時間：10時～15時

電話番号：097-544-9512（直通）

大分県薬剤師会（薬事情報センター）



# 図書館だより

## ★小さな小さなしおりの話★

10月27日～11月9日 今年も読書週間がやってきます。今年の標語は、「しおりいらずのー気読み」。しおりも必要ないほど夢中になってしまう本に出会えるのは幸せです。夏休みの間そんな経験ができた子どもはいたでしょうか？でも、本の読み方は人それぞれ。一冊の本を、ゆっくり時間をかけて読むのも素敵。そんな時活躍するのが小さなしおり。「博士の愛した数式」の著者 小川洋子さんが、「私の好きなもの」という新聞コラムの中で、「本についているひものしおり（スピン）」を好きなものの一つとして挙げていました。小川さんの作品では、何気ない小さいものたちが重要な役どころを演じる場合が多いのですが、小さな本のしおりを「好きなもの」としてあげるなんて、いかに小川さんらしいと、うなずいてしまいました。

さて、本に愛情を持ち、本のページを折らないようにとの心づかいから、またデザインの一部をになうものとして、本にしおりひもをつけるのは日本だけでしょうか？

外国の本にはあまり見かけないように思うのですが、知っている方いらっしゃいますか？



図書館開館時間

平日 10:00～18:00  
土・日 9:00～17:00  
月・祝 休み

また、出版社が文庫本にはさみこんでいる紙のしおりも、注目すると、意外と面白いもの。確かに、それぞれの出版社で意匠を凝らしているのがわかります。中でも、ちくま文庫のしおりは、デザイン的に最も優れているといわれています。新潮社は、文庫本にもしおりひもをつけていますが、販促グッズとしてパンダのキャラクターをデザインしてつくられた紙のしおりはなかなか可愛くて人気です。

普段あまり注目されず、いつのまにか捨てられてしまう感のある「しおり」ですが、本当は読書のお手伝いをしてくれる頼もしい存在。読書週間にちなんで一回ゆっくり「しおり」に想いをはせてみるのも案外面白いかもしれませんね。

## お知らせ

先月の図書館だよりでもお知らせしましたが、図書館の雑誌・重複本等のリサイクルをします。10月29日(日)まで、文化センターロビーにて。ご希望の方は是非おいでください。

## ●新刊・新着図書案内●

### 《児童書・コミック》

NHK子ども科学電話相談1	NHKラジオセンター
風にふかれて	今江祥智
教科書にでている童謡・唱歌のふるさと1～3	吉村温子
むしむしだあれ？	今森光彦
すきすきどうぶつ	今森光彦
わくわくゴロリのうごくのりものをつくらう	ヒダオサム
レインボーマジック1～3	デージー・メドウズ
おじいちゃんがおばけになったわけ	キム・フォックス・オーカソン
	その他

### 《一般書》

受命	帯木達生
静寂の子	谷村志徳
温室デイズ	瀬尾まいこ
昭和史	半藤一利
赤い指	東野圭吾
八月の路上に捨てる(芥川賞受賞作品)	伊藤たかみ
医者をやぶにらみ	井上通泰
百姓が時代を創る	山下惣一
人生の旅をゆく	よしもとばなな
人と地球にやさしい仕事100	
高齢者のための筋力トレーニング	鈴木正之
おおいの建築家の本 vol.2	
給食の味はなぜ懐かしいのか？	山下柚実
美しい国へ	安倍晋三
30日間マクドナルド生活	マツモトケイジ
地下鉄に乗って 特別版	浅田次郎

### 天命

美食の王様  
見えない貌  
気候変動+2℃  
カントリーアンティークのすてきな暮らし  
サイクリング・ブルース  
柳生真吾の家族の里山園芸  
心脳コントロール社会  
家庭で作れるロシア料理  
憲法第九条と昭和天皇  
手づくり帽子BOOK  
花の名前と育て方大事典  
名もなき毒  
井上ひさしの子どもにつたえる日本国憲法  
がばいばあちゃんの幸せのトランク  
それからはスープのことばかり考えて暮らした  
風味バツグン和風ケーキ&クッキー  
しずくちゃん7  
こどものダンボール工作101てん  
夢はトリノをかけめぐる  
最高の医療をうけるための患者学  
福耳落語  
広重の暗号  
米寿快談  
警察裏物語  
被爆のマリア  
イマジニ -自由訳-

### 五木寛之

来栖けい  
夏樹静子  
山本良一  
天沼寿子  
忌野清志郎  
柳生真吾  
小森陽一  
荻野恭子

### 宮部みゆき

井上ひさし  
島田洋七  
吉田篤弘  
奥蘭壽子  
きぼりつこ

### 東野圭吾

上野直人  
三宮麻由子  
坂之王道  
金子兜太・鶴見和子  
北芝健  
田口ランディ  
ジョン・レノン  
その他

## ゴミの分別についての講習会

お子さん連れOK。託児あり。  
ゴミの分別でわからないこと、知りたいことはありますか。みんなで正しいゴミの分別について学習しましょう。

日時 11月28日(火) 10:30～11:30

場所 保健福祉センター

申し込み 児童館 ☎ 76-2500

主催 九重町母親クラブ・チャムチャムクラブ



## 劇団かかし座公演 長靴をはいたねこ



2006年11月3日(祝) 14:00～  
(13:30開場)

### 九重文化センター

大人1500円、高校生以下500円

(3歳以下無料)

大人も子どもも楽しめる影絵を使った舞台です。色あり、音楽あり、迫力あり。影絵って奥深い！そして、おもしろい！！  
問い合わせ 九重文化センター ☎ 76-3888

## 岩尾秀雄さんに 交通安全県知事表彰

「秋の全国交通安全運動（9月21日～30日）」の盛り上げなどを目的に開催された「平成18年大分県交通安全県民大会」（9月6日 iichiko総合文化センター、約640人参加）で、岩尾秀雄さん（野矢）が県知事表彰を受けました。



1983年から続けている交通安全指導員活動などを通じて「交通道徳の向上と交通秩序の確立」に大きな貢献があったとされるもの。受賞に喜びの笑顔の岩尾さん、現在は交通安全運動週間を中心とした街頭指導が活動の中心で、「みんなと顔なじみになり、笑顔であいさつを交わしつつ交通安全をしてもらえるのがうれしい」と話していました。岩尾さん自身も30年近く無事故・無違反の優良ドライバー。「周りの状況をよく見て、早め、早めの判断が大事ですね」

## 110 交通安全

平成18年町内地区別事故発生状況(累計、属地)

地区別	人身事故			物損事故	件数計
	死者	負傷者	件数		
東飯田	0	6	4	25	29
野上	0	18	9	36	45
飯田	0	24	10	84	84
南山田	0	22	16	51	67
計	0	70	39	196	235

(2006年9月末現在)

## 里親になりませんか

～子どもたちに家庭のぬくもりを～

親の病気、離婚等のため家庭での養育が困難になった子どもの相談が年々増加しています。その子どもの多くは、乳児院や児童福祉施設等で養育されています。

家庭での養育が困難な子どもたちを里子として預かり、温かい愛情と家庭的雰囲気の中で育ててくださる方を「里親」といいます。

里親になるためには、特別な資格は必要ありません。養育をお願いする期間は、数日間から数年間までさまざまです。

大分県では、現在里親を広く募集するため、里親制度説明会を開催しています。

関心のある方は誰でも参加できますので、お気軽にお越しください。

日時 10月27日(金) 10:30～12:30

場所 くすまちメルサンホール

問い合わせ 大分県中央児童相談所

☎ 097-544-2016

ふれあい生活課福祉グループ

☎ 76-3802



## 命を救うために

心臓が突然停止した際に電気ショックを与え心臓の働きを戻すことを試みるAED（自動対外式除細動）が現場と、夢、大吊橋事務所に導入されることになり、9月27日から29日の3日間、職員を対象にした学習会が玖珠消防署で行われ、延べ30人が参加しました。緊急時に救急車が来るまで九重町では平均11分（全国平均は6分）かかっており、この間に適切な応急手当をすることは、より高い確率の救命につながります。その際に有効な働きをするのがAED。使用法は比較的簡単ですが、心肺蘇生などを合わせて行う必要があります。このため、学習会では心臓マッサージや人工呼吸などの心肺蘇生法について人形を用いて

の訓練も実施。AEDの操作をした職員は「音声ガイドに沿えば、誤操作の心配もなく、簡単に完了に停止している心臓にはAEDの診断機能が「必要なし」の診断を下し通電は行われません。AEDはもともと医師や救急救命士しか使えなかったものの、2004年から一般の人にも可能となったことから、空港や学校、駅などの公共施設への設置が増加中。2005年の愛知万博では場内に多数のAEDを設置したことで助かった人が少なからずいるといわれます。九重町内でも公共施設を中心に今後増やしていく予定。

## くすまち 119番



### 「AED（自動対外式除細動）」とは

AED（自動対外式除細動）とは電気ショックが必要な心臓の状態を判断できる器械です。突然死の原因のひとつは心臓疾患です。それを心臓突然死といい、大部分は心室細動という病気で、心室細動になると心臓がけいれんし、ポンプとしての役割が果たせず、助かるチャンスは1分間経過することに約10%ずつ

失われ、10分後にはほとんどの人が死に至ります。この心室細動を正常な状態に戻す唯一の方法は除細動（心臓への電気ショック）です。そこで、早期の除細動ができるAEDの使用が必要となり、素早い除細動は社会復帰の鍵にもなります。AEDを自宅、学校、職場、たくさんの方が集まる公共の施

設など様々な場所に置き、AEDを使うことで、突然死を防ぐことができるのです。AEDは除細動が必要なかを判断し、救命の手順を音声にして指示します。AEDは除細動を含めた救命行為が簡単にできるように作られています。操作するには資格は不要です。AEDの講習会を受講いただくことにより理解を深めることができ、講習会受講をお勧めします。

お問い合わせ先  
玖珠消防署救急救助係まで  
☎ 7212141

# くらしの情報

## 平成18年度防衛庁各種学生募集案内

**募集種目** 自衛隊生徒  
**応募資格** 15歳以上17歳未満の男子  
**受付** 11月1日～1月9日  
**1次試験** 1月13日(日田市役所)  
**問い合わせ** 大分地方協力本部玖珠連絡所  
 ☎ 72-1116 内線371

## おおいた子育て応援団 「ババママとくとくショップ」開始

18歳未満の子どものいる家庭を対象に、割引や特典などが受けられるサービスがスタートしました。利用にあたっては会員登録が必要です。詳しくはホームページで。  
<http://oitakosodate.net>

**問い合わせ**  
 県少子化対策課 ☎ 097-536-1111 内線2712

## 小学生～高校生のための冬休み海外派遣

派遣先はグアム、オーストラリア、フィジー。対象は小3～高3で、参加費は17.5万～29.8万円(別途共通経費)

**締切** 11月2日(木)  
**問い合わせ** (財)国際青少年研修協会  
 ☎ 03-3359-8421 <http://www.kskk.or.jp>

## ご家庭内の湯沸器の点検のお願い

パロマ工業㈱製瞬間湯沸器による一酸化炭素中毒の再発防止のため対象機種の特検、回収を実施しています。ご家庭にある湯沸器を必ずご確認のうえ、下記の形式に該当している場合は、パロマ工業㈱にお申し出ください。

**問い合わせ** パロマ工業株式会社お客様相談室  
 フリーダイヤル 0120-314-552(24時間受付)  
**形式** PH-81F PH-82F PH-101F PH-102F  
 PH-131F PH-132F PH-161F  
 形式は製品側面にある機器型式プレートをご確認ください。

## 第16回日本障害者スポーツ学会

### 特別講演・パネルディスカッション

**日時** 2006年10月28日(土) 14:00～16:30  
**会場** 大分県労働福祉会館ソレイユ(大分市中央町)  
**内容** 日本サッカー協会会長川淵三郎さん講演、パネルディスカッション。参加は無料です。  
**問い合わせ** 太陽の家日本障害者スポーツ学会事務局  
 ☎ 0977-66-0277 FAX 0977-67-0453  
 E-mail [sportsgakkai@taiyonoie.or.jp](mailto:sportsgakkai@taiyonoie.or.jp)

## 今月の行政相談

10月24日(火) 南山田公民館  
 (心配ごと相談所と同時開催)  
 時間は9:00～12:00  
 11月7日(火) 九重町隣保館

## 公開Re・Be(リ・ビー)ワークセミナー ～再就職準備支援(無料)

**日時** 11月16日(木) 13:30～15:30  
**場所** アイネス(大分市東春日町)  
**内容** ジャーナリスト福沢恵子さんの講演  
**定員** 100人(無料託児あり)  
**申し込み・問い合わせ**  
 (財)21世紀職業財団大分事務所 ☎ 097-538-7755

## 自死遺族のつとめ

対象は大切な人を自死で亡くされた遺族の方です。

**日時** 平成18年11月20日(月) 14時～16時  
 平成19年3月9日(金) 午後  
**会場** 大分県精神保健福祉センター  
 大分市大字玉沢908番地  
 (わさだタウンの近くです)  
**内容** グループミーティング  
 ・数名のグループで、気持ちの“わからあい”を行います。  
 ・秘密を守ることを約束していただきます。  
 ・ニックネームで参加くださっても結構です。

**参加費** 無料(事前申し込みが必要)  
**申し込み・問い合わせ先**  
 大分県精神保健福祉センター ☎ 097-541-6290

## 液化石油ガス設備士再講習(法定義務)について

この再講習は、法の定めにより、5年に1回(初回は3年)受講することが義務づけられています。

**日時** 平成18年11月16日(木)・17日(金)  
**問い合わせ** 大分県液化石油ガス教育事務所  
 ☎ 097-558-5483  
<http://www.oitabg.or.jp/>

## 保護者向け講演会

### 「子供の就職・夢の実現のために親ができること」

「自分にあった職に就けない」「就職してもすぐに辞めてしまう」など、課題の多い最近の子供の就職について、問題の解決方法等を保護者のみなさんとともに考えるセミナーを開催します(無料)。

**とき** 11月26日(日) 13時30分～16時30分(13時開場)  
**ところ** トキハ会館カトレアの間(大分市府内町)  
**対象者** 就職や進学を控えた生徒・父兄  
 (親子での参加歓迎)  
**内容** 「子供を就職させる本」の著者、小島貴子氏による講演ほか  
**問い合わせ** ジョブカフェおおいた事業推進室  
 ☎ 097-548-5771

大分県の最低賃金は1時間**613円**に変わりました。(効力発生日：平成18年10月1日)

詳しくは大分労働局労働基準部賃金室(☎ 097-536-3215)まで。

## 原子爆弾被爆者二世に対する無料健康診断

**対象者** 両親またはそのどちらかが原子爆弾被爆者で、大分県内にお住まいの方

**申し込み期間** 11月6日(月)～12月15日(金)

**申し込み・問い合わせ**

日田玖珠県民保健福祉センター玖珠保健支所

☎ 72-1150

## 石綿(アスベスト)業務に従事した 離職者に対する特別健康診断

**対象者**

石綿を製造し、または取り扱う作業に従事して退職した方で、次のすべての項目を満たしている方。

①従事していた作業が特定できる②初回ばく露から10年以上経過③以前石綿作業に従事していた事業場が廃業や倒産、退職者に対する健康診断を拒否等の理由で石綿健診を受診できない状況にある④石綿にかかる健康管理手帳を所有していない

\*申請された方全員が受診できるとは限りません。

\*無料です。

**申請受付期間** 11月1日(水)～11月17日(金)

**問い合わせ・申請**

大分労働衛生管理センター ☎ 097-552-7788

大分総合健診センター ☎ 0977-66-4113

## 石綿(アスベスト)による健康被害で 亡くなられた労働者の遺族の方へ

特別遺族給付金及び労災保険給付請求制度があります。請求期限がありますので、早めの手続きをお願いします。

### 1. 特別遺族給付金

平成13年3月26日以前に石綿ばく露を原因とする疾病により死亡した労働者の遺族が対象

### 2. 労災保険給付

平成13年3月27日以降に、業務による石綿ばく露を原因とする疾病により死亡した労働者の遺族が対象

詳細については、独立行政法人環境再生保全機構(☎ 0120-389-931)まで

## 過去に兵庫県にお住まいの方で、肺に石綿 (アスベスト)による症状がある方へ

半年に1回の経過観察(胸部のエックス線及びCT)にかかる費用を負担する事業を実施しています(兵庫県事業)。詳細は兵庫県疾病対策課(☎ 078-341-7711 内線 3288)までお問い合わせください。

## 女性に対する暴力をなくす運動

11月12日～25日は「女性に対する暴力をなくす運動」期間です。夫やパートナーからの暴力(DV:ドメスティック・バイオレンス)、セクハラ、ストーカー行為、売買春、性犯罪など女性に対する暴力は女性の人権を侵害するものであり、許されるものではありません。この機会に、あなたやあなたの親しい人が抱えている問題について相談してください。

### 女性総合相談

アイネス ☎ 097-534-8874

月～金 9:00～16:30

### 夫・パートナーからの暴力については

配偶者暴力相談支援センター ☎ 097-544-3900

月～金 9:00～21:00

土日祝 13:00～21:00

## 全国一斉「女性の人権ホットライン」強化週間

秘密は厳守します。お気軽にご利用ください。

**日 時** 平成18年11月13日(月)～19日(日)

平日 8:30～19:30

土日 10:00～17:00

**電話番号** 0570-070-810(全国共通)

**相談内容** 夫やパートナーからの暴力・職場のセクシャルハラスメント・ストーカーなどの人権問題

問い合わせは大分地方務局(☎ 097-532-3161 内線36)。

大分地方務局では平日8時30分から17時15分まで「女性の人権ホットライン」専用電話(0570-070-810)にて常時相談に応じています。お気軽にご相談ください。

## 大分地方法務局日田支局における 不動産(土地・建物)登記事務の コンピュータ化について

平成18年10月10日から玖珠郡内の不動産(土地・建物)の登記事務がコンピュータ化されました。

このことにより、登記簿謄本・抄本に代えて「登記事項証明書」が発行されます。これはこれまでの登記簿謄本・抄本の効果と変わりありません。また、登記簿の閲覧制度の廃止に伴い、登記事項を要約した「登記事項要約書」を発行します。

なお、コンピュータ化された全国の登記所から玖珠郡内の登記事項証明書などを取得することができるようになります。

**問い合わせ** 大分地方法務局日田支局

☎ 0973-22-2719

## 今月の 年金相談

**日時** 10月25日(水)10:00～15:00

**場所** 九重町役場1階・102会議室

## 今月の納税 納期限10月31日

【国民健康保険税】

【固定資産税】(第3期)

# 幸せになる道



No.129

## 道

一本の道がある。

どの人にも進む道がある。

1986年、「町立隣保館併設恵良交通センター」として開設された隣保館が、今年20周年をむかえます。地域におけるあらゆる差別の解消に役立つとともに、広く同和問題解決のための地域間交流の場としてスタートした隣保館。あれから20年……。

隣保館も人権の館として、人権の道を歩んできました。人権問題は、同和問題に限りません。しかし、日本独自の人権問題である同和問題の解決を放置しておいて他の人権問題が解決できるとは思えません。

部落差別という事実は、「生まれ」による差別です。誰も自分が生まれる地域を選ぶことはできません。また親を選ぶこともできません。本人として何らの責任もなく、また、どんなに努力しても差別を受けるとすれば、こんな不当なことはありません。江戸時代に被差別民とし

て位置づけられた人々が住んでいた地域の出身者、またその地域出身の人から生まれたということだけで、現在でも差別の対象とされているわけです。「同和問題はなくなっているのでは」と言う人が多くいるなかで、今もお現実的には結婚や就職の際に身元調査が行われたり、差別落書きや差別手紙・電話などがみられたりします。現在なお続く差別や偏見があります。同和問題に関する「真実と出会い」がとても大切です。

「人権」とは何か？自分に問いかけ、人権感覚を磨き、「人と人との出会い」や「人と人との関係」も大切にしていきたいと思います。九重町隣保館も地域のみなさんとともに、人権の道を、「一人ひとりの人権をともに認めあい、ともに育む」。みんなの心、やさしくなれ。やさしい心、大きくなれ。

隣保館人権啓発指導員 安藤千恵美



## =2006年10月・11月休日当番=

病 院	月	日	医療機関名	住 所	電 話
	10月	22日	井上 医 院	恵 良	76-2711
			三池循環器科内科医院	塚 脇	72-6101
		29日	友成(産婦人科)医院	塚 脇	72-0330
			飯田高原診療所	飯 田	79-2138
	11月	3日	小 中 病 院	塚 脇	72-2167
		5日	玖珠記念病院	塚 脇	72-1127
		12日	武 田 医 院	森	72-0170
			矢 原 医 院	野 上	77-6121
		19日	北山田クリニック	北山田	73-2030
			長内科小児科胃腸科医院	春日町	72-2143
	23日	高 田 病 院	春日町	72-2135	
	26日	麻生消化器科内科医院	山 田	72-7100	
		友成(町田)医院	町 田	78-8811	

歯 科 医	月	日	医療機関名	住 所	電 話
	10月	22日	小野 歯科 医院	天瀬町	0973-57-2102
		29日	桑野 歯科 医院	日田市	0973-22-2556
	11月	3日	吉武 歯科 医院	玖珠町	72-0615
		5日	アベックス歯科	日田市	0973-22-0075
		12日	アップル歯科医院	日田市	0973-24-7710
		19日	林田 歯科 医院	引 治	78-8416
		23日	川津 歯科 医院	日田市	0973-24-6347
		26日	沢熊 歯科 医院	日田市	0973-22-2900

獣 医	月	日	獣医師名	電 話
	10月	29日	佐藤 獣 医	77-6448
	11月	5日・18日・26日		
	10月	21日・28日	山本 獣 医	78-9101
	11月	4日・11日・23日		
	10月	22日	甲斐 獣 医	76-3324
	11月	3日・12日・19日・25日		

★都合で変更する場合があります。

玖珠消防署：● 救急は119番 ☎72-2141

● 火災の確認は ☎72-5100

備考 大分県中西部農業共済組合 ☎3 4 0 9  
休日当番の電話番号(携帯)は 090-5721-8191

# 歳時記

## 季題

11月号

「菊」「楓」

「山粧ふ」

(10月25日締切)

12月号

「暮れ早し(短日)」

「賀状書く」年の暮れ」

(11月24日締切)

### 今月の季題

「芒」「柿」  
「秋(天)高し」

ぜいたくに芒の中でかくれんば  
挽ぐ人の今年もなきや柿たわわ  
天高し九重自慢の大吊橋  
万歩計いつもの歩中で糸芒  
休耕田いやだいやだと芒ゆれ  
ちらほらとつるし柿かな過疎の町  
柿の葉のちぎれて透けて空の青  
干し柿をむく手に母の思い出を  
天高しどこまでつゞく幸せは  
ヘリコプター農薬散布天高し  
天高く澄みきる空に飛行雲  
秋高し大吊橋の夢かなう  
秋高し上棟式の一本締め  
秋天や「夢」大吊橋の渡初め  
挽いても風支えあふ花す、き

「ぜいたくに芒の中でかくれんば」花世をかくれ家とは。「挽ぐ人の今年もなきや柿たわわ」昔に比べ柿ちぎりも少ない。「天高し九重自慢の大吊橋」大吊橋の完成、当に九重の秋、季語の秋澄む、水澄む、爽やかは秋だが、空澄むは季語ではない。長閑は春の季語。

選者 麻生 良昭

このコーナーは町民となたでも応募できます。ハガキに作品名と住所、氏名、電話番号をお書きのうえ企画調整課広報グループまで応募を。なお、応募作品は返却しません。

佐藤 修正  
伊東 匡子  
原田 孟一  
原田 勝子  
松本まち子  
湯浅加代子  
玉井多喜子  
小野ミツノ  
森高マサヨ  
井上 マキ  
藤澤 節子  
穴井久美子  
清竹 勇藏  
佐藤 元八  
選者 吟

添削がありますのでご了承ください。 広報

## このえ 時間旅行

ふるさと再発見 145

地名を歩く 栗野(6)

九重町文化財調査員 甲斐素純

『銘細帳』の玖珠川の箇所には、「西川、桑原川、とうほし川」とあり、「右川筋之儀、往古八當村内牧口と申所ヨリ同郡右田村、且村、恵良村、書曲村え流通申候処、七拾八年以前萬治元戊年之洪水ヨリ當村へ始て川筋押通申候、其後度々御普請被仰仕候へ共、當村地下リ二付、数度之洪水押通今以大川流通申候二付、段々水損所多別テ難儀仕候」とある。

かつて往古は右田・下且・恵良・書曲の各村々を流れていたが(現在のJR鉄道沿い)、万治元(一六五八)年の大洪水で栗野村の方へ川筋が初めて通り、それで降度々の普請にもかかわらず数度の洪水で現在の玖珠川の流路になり、水害で難儀しているという。

また当時は、「本百姓七拾軒、水呑式拾七軒」で、「村中人數五百八拾三人、内三百拾人男・式百七拾三人女 享保廿卯年御改」とある。享保二十(一七三三)年の栗野村の人口は五八三人で、男女の割合は男の方が多し。「牛馬六拾三疋(ひき)、内馬拾四疋、牛四十九疋、右同斷」とある。

庄屋は一人で、組頭は五人いた。「鉄砲七挺」とあり、威筒(おとしづつ)で玉目の大きさと持ち主が記されている。また「八幡宮・山神・神明堂・一向宝真修寺・同慶院・観音堂」の説明があり、村内には紺屋(染物屋)が一人いた。また「居村(栗野村)ヨリ見候山」として、「玖珠郡角牟礼城山 子ノ方・同郡伐株城山 戊ノ方」などとあり、平家山・硫黄山・涌蓋山・万年山の方向を明示している。銘細帳にはこの外多くのことが記され、各種情報を得ることがができる。

前回記した「金山」について、ここでもう少し詳しく記してみよう。金山に関する最も古い文献によると、栗野村の古金山は承応元(一六五二)年津江市兵衛と申す者が「高塚」という所で二年にわたり開掘をした。その後寛文八(一六六八)年には野上次郎右衛門という人が江戸から下って来て五年余開掘し、延宝元(一六七三)年六月に御山(金山)を返上した。また同年七月よりは、吉田市郎左衛門・亀谷五郎兵衛という人が同じく江戸より来て、一年御運上銀百枚指上げ、御山勤めをした。(中略)そして天和元(一六八一)年より宝永五(一七〇八)年まで「御直山」となり、翌年より「御届山」となっている。



かつては右の線沿いを流れていた大川も、万治元年の大洪水で今の流れができた(金山より臨む)。

# 人の動き

弔慰

お悔やみ申し上げます

おめでとうございます

出生

おなまえ	年齢	行政区
阿部 三六	73	川上 一
安部 季彦	72	引治 二
竹枝 幸信	83	小生 垣
佐藤 垂子	70	桐生 竜
篠原 イヨ	89	桐生 木
小野 政喜	73	田中 本
宇佐 清人	91	尾下 六
山下 隆治	53	下旦 原
森口 正幸	86	重野 一
永樂 スギノ	88	奥野 本
熊谷 由喜	56	菅原 村
佐藤 茂子	73	年の 神
井上 諭子	58	南恵 良
白地 忠子	85	黒猪 鹿

9月1日～9月30日届出分

(敬称略)

## 人口と世帯

人口 11,501 人 (-17)  
 男 5,457 人 (-10)  
 女 6,044 人 (-7)  
 世帯 3,923 (+1)  
 ( ) は前月との増減

おなまえ	性別	保護者	行政区
井原 優色	男	隆	中央 一
赤峰 英莉	女	正勝	湯坪 下
松木 彩夏	女	教人	富迫 下
赤峰 美鈴	女	勝也	湯坪 下
佐藤 みのり	女	直芳	恵良 団地
佐藤 双葉	女	隆博	岩の上
衛藤 太晟	男	伸仁	恵良 団地

第12回九重ふるさと祭り×  
 第35回飯田地区農業祭  
 とき 11月5日(日) 9:00~  
 ところ 飯田農協裏広場  
 問い合わせ 企画調整課 76-3807

日本映画の最高傑作!

### 飢餓海峡

10月28日(土) 18:30~  
 九重文化センター

水上勉の同名小説を原作に、内田吐夢監督が人間の業を描ききった1965年製作の作品です。3時間に及ぶ超大作でありながら、緊張感の高さは演出、演技、カメラ等すべてにおいて一瞬も緩むことなく、波乱のストーリーは見る者を最後まで引きつけて止みません。この映画は本当にすごい!見終えた人の多くがそう思うはず。最高です。お見逃しなく。

出演:三國連太郎、左幸子、伴淳三郎、高倉健ほか

チケット 前売り1,000円(高校生以下500円)  
 \*当日各200円増  
 問い合わせ 九重文化センター☎76-3888

ここで会いましょう

### 九重“夢”大吊橋10月30日オープン

中村側、北方側2カ所から入場できますが、オープン当日は落成式がありますので、中村側からのみの入場となります。

問い合わせ 九重“夢”大吊橋管理センター 73-3800

11月のお知らせ

### 町長と語る ふれあいタイム

11月11日(第2土曜日)  
 午前10時~午後4時(日中開催)

11月25日(第4土曜日)  
 午後6時~午後9時(夜間開催)

場所は町長室です。お気軽においでください。

## もじじ

- 新規事業を点検 2~6
- 学校再編についての答申 7
- 九重町平成17年度決算 8~9
- 都市との農業・農村交流 10
- 敬老の取り組み 11
- ニュースクラブブック 12~15
- 男女共同参画プラン(案)をめぐる 16
- 保健(インフルエンザ) 17
- 図書館だより 18
- 交通安全/AED 19
- 暮らしの情報 20~21
- 人権/休日当番/歳時記/時間旅行 23

● やめることって、けっこう度胸がいります。仕事に限らず、マンネリ化して効果にも疑問があるってことないですか。今月取り上げたものは、そんなことありませんからね。念のため、一度始めたら、いろいろしがらみが出てきて、おまけにやめたら他人からよく思われないうんじんやいかとか思ったりして、「やめるのが一番難しい」とはよく聞く声。でも、たいていが気苦しさつばりやめて、風当たりが強くなるってことは、あまりないようです。●ある物事をめくって、個人個人に聞く改善したり、集団となると現状追認になってしまったり、こともよくあります。しかし、この場合、個人としての判断のほうが往々にして正しい。この点でも、もっと個人個人の感性や考えを大事にしたほうがいい。そんなことをいつも思います。●反省することもけっこう難しい。ついつい弁解してしまう。素直じゃないんだなあ。特に役所はなかなか・・・とはよく言われること。で、今月の特集「いばることも、反省すること」。反省の弁だらけになってしまいました。不調の原因は何かをきちんと振り返り、よく考えてどう次につなげていくかが大事です。●よしとばなさんの、「人生の旅をゆく」(図書館にあり)にこんなことが書いていました。「日本の自然を感じるという事は、感じるほうが感性をとぎすませなければ、どんどんその深い懐に招き入れられ、魅力がより深く微妙になっていく。その場で圧倒的にいくいく迫ってくることはなくとも、じわじわとその清らかさやたくましさ、柔らかな布のような感で心によみがえってくるような感じがする。どこまで分析しても雑なところがない繊細さだ。九重の自然も同じです。長い時間をかけ、たくさんの方が染いたその繊細なイメージには「とぎすまされた知性と感性」を感じます。経済も大事だけど、このことは忘れちゃいけません。大吊橋は月末に開通です。」

## 編集後記

町の面積 271.41km<sup>2</sup> / 町の木 くぬぎ 花 ミヤマキリシマ 鳥 カッコウ